

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892200072		
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホームこもれ陽の家		
所在地	茨城県鹿嶋市和941-12		
自己評価作成日	2020年10月29日	評価結果市町村受理日	2021年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=0892200072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた場所に立っており、静かな環境の中で生活されている。敷地隣には、自社の畑があり、利用者と職員と一緒に収穫し、採れたてで新鮮な野菜を食事に提供している。毎年、月1回の外食会や、季節行事等で定期的に外出をしているが、今年度は感染症対策の為、外出を中止し、代わりに室内で工夫し季節行事を行っている。また、レクリエーションにミュージックケアを取り入れ、心身のリハビリテーションを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路から離れた、自然豊かな陽当たりの良い敷地に建つ事業所である。ホーム前の畑やホームを囲む木々から季節を感じることができる。旬の野菜、麴から手造りした味噌を使った食事は、利用者や家族にも好評である。職員は「笑顔でいきいき」の理念を基に、利用者や利用者を支える職員自身が笑顔で過ごせることを大切にしていることが、廊下に掲示されている日々の利用者の写真の笑顔に表れていた。新型コロナウイルス感染予防の為、行動が制限されている中、お茶を点てたり、紙芝居をしたり、母の日に着物を、父の日には背広を着るなど、利用者のストレスを感じないよう工夫した支援をしている。代表者の家が近いことや、看護職員にいつでも相談できることは、夜勤職員の不安軽減に繋がっている。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し、その理念に基づき、意識して実践している。	「笑顔でいきいき こもれ陽の家」の理念が玄関正面に掲示されており、職員は毎日確認し、1日1回は利用者の笑顔が見られるように、そのためには職員が元気で笑顔でしようと心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花壇の水やりや、玄関前の清掃時に近所の方々と挨拶を交わし、交流の機会を持っている。また、近所の方が、感染症予防にと手作りのマスクを届けて下さった。	コロナ禍で地域との交流が制限されているが、ボランティアの方が自らの道具を持って自転車で訪れ、コンポストの移動や窓ふきなどを継続して手伝ってくれている。例年、BBQなどホームの行事に地域住民を招待して交流していたが、それも自粛となり残念に思っている。近所の方や、以前利用されていた方の家族から手作りマスクが届けられ、感謝しているとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談はいつでも受け付けているが、施設内の見学は感染症予防のため、今は遠慮して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、サービス状況の報告をし、会議で意見交換した情報をカンファレンスで検討し、日々の介護に反映している。	感染予防の観点から、今年度数回は、利用者と職員で会議を行い、委員の方に書面で報告をした。現在は消毒等感染対策を徹底して集まって開催し、行事報告等と感染症関係の話題が多くなっている。12月には例年クリスマス会と同日に開催していたが、今年度は会議のみ開催する予定。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議でホームでの取り組み等を伝え、市で行っている認知症サポーターの傾聴ボランティア受け入れており、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市とは密に情報交換しており、コロナ禍でも傾聴ボランティア実習を受け入れるなど良好な関係が構築されている。生活保護を受給している利用者があり、担当者ともよく連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修をしており、拘束とは何かの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は、系列のグループホームと合同で開催。現況報告とテーマを決めて話し合いを行う。議事録を作成し、出席できない職員にはカンファレンス時に報告している。何でも口に入れてしまう利用者おり、様々な工夫をして職員が見守っているが、消毒液等がある浴室には鍵をかけるようにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体への虐待だけでなく、言葉による虐待もあることをカンファレンスの時に話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある、利用者様には、状況提供やアドバイスができるよう学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、丁寧に説明し、納得・理解して頂いている。不安や疑問な点は、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とコミュニケーションをとり、思いを組み、支援に活かしている。また、ご家族が来棟された際に声をかけ気軽に話ができるよう努めている。	コロナ禍で面会は窓越しや外のテーブルでアクリル板越しになっており、請求書と一緒に日頃の様子を写真で知らせている。夕方に不安になってしまう方を家族が心配し、電話で話す時間を作ったり、家の写真を撮って送ってくれた。今年は家族会は開けないが、支払い等で来所された家族には様子を伝えたり、要望を尋ねるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを設けており、出た意見や日々の仕事の中での提案を聞き、リーダー・管理者会議で検討され運営に反映させている。	職員は消毒液を持ち歩き、日用品の買い物以外の外出を極力控えるなど、日頃から感染予防に留意しており、職員の提案で、食事利用者とは別にとるようにしている。リーダーや管理者は職員がストレスをためないよう、様子を見て声かけしたり、1対1で話を聞く機会を設けたりしている。職員からは、職員間の連携も取れ、カンファレンスでは思いを伝える事もでき、考える時間となっている、と前向きな言葉が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい環境作りと従業員の意識向上の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は設けているが、感染症対策で機会も少なく、参加が難しい状況である。移乗の研修会等施設内研修も適宜に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は研修やセミナーに参加し、他の事業所との交流を図り、サービスの向上への取り組みを行っていたが、今年はコロナ感染症予防の為、参加できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを密にとり、どんな事に不安を感じているのかを知り、本人が安心して生活して頂けるような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在は面会が難しい家族も多い為、電話等にて家族とのコミュニケーションをとることが多くなっている。家族の要望と質問等、管理者を中心に早急な対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、その時に必要な支援を検討している。そのうえで必要な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意な事は、積極的に活動していただいている。食事面でも、包丁を使って下ごしらえを手伝って貰っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを大事にし、ご家族と電話して頂いたり、手紙を書いて頂いたりして、家族との時間を楽しんで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話で話して頂く機会を持って頂いたり、関係性を保てるような支援を心掛けています。	広告をみて「これ食べたい」との声があがり、職員が買いに行ったり、まんじゅう作りに発展することもある。コロナ禍で訪問や外出が困難な中、友人に手紙を書いている方がおり、季節柄、希望者には年賀状を出す支援をする。書道が得意な方には、イベントの式次第を書いてもらっている。行きつけの床屋に通っていた方もいたが、今年は訪問美容を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わり合える関係性ができている方もいるが、うまくコミュニケーションを取れていないことも多くみられる。スタッフが間に入りうまくコミュニケーションをとって頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族からマスクの寄付があったり、その際に利用者様との交流もあった。関係の維持もできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の時間を大切に、個別で話して頂く時間をとるようにしている。要望には、なるべく応えられるな支援に努めている。	居室やお風呂など1対1の環境になった時には特に意識して話を聞く。家や子どもを心配をする方や、「寝ること、食べることが好きだからそれで満足」と言う方もいる。コミュニケーションが取れにくい方には、表情や口元の変化などをみて推察し、利用者同士の問題の時は、席を離すなどの対応をすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言葉の中から、昔の生活環境等を聞き、今までの生活に近づけるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化の把握に努めている。また、本人の得意な事を生活に取り入れ、楽しい時間を持って頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、課題やケアの見直しを検討している。必要に応じて計画を変更し、その時にあったケアを実践している。	半年毎に担当者が、センターシートを利用してアセスメントを行い、作成者がカンファレンスで職員の意見を聞きプランを作成する。目標に向かって利用者が実践する項目が入っており、支援されるばかりではない、良いプランとなっている。コロナ禍である為、現在は、家族に電話でプラン説明をしている。カンファレンスでモニタリングも行っているが、プランに即した記入ができるよう、経過記録様式の変更を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に詳細に残し、スタッフ間の情報の共有に努めている。その時にあったケアをその都度見なおしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々の希望を聞いたうえで、理髪をお願いしている。一人一人のニーズに合わせて必要なものを用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策をしっかりと頂いた上で、ボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診をして頂いている。その他にも、ご本人や家族の希望に沿って病院受診できるように支援している。	月に1回の往診を受けている方は、変化があった時に看護師が家族に連絡をし、記録に残している。家族介助で受診される場合は、日常の様子をメモ書きにしたり、薬の情報をコピーして家族に渡している。ペースメーカー装着の方は、看護職員が付き添い、受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や本人の訴えがある時は、その都度看護師に相談し、必要に応じて受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携は随時取っており、往診時に相談したり、情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ターミナルケアを行っている施設である事を説明している。普段の会話から、本人の希望を聞き取り、家族とも話し合ったうえで、希望に沿った終末期であるよう支援している。	契約時に看取りを行うことを説明し、重度化したときには主治医・診療所と連携し、利用者と家族に確認して方針を定めている。食事の様子なども詳しく家族に連絡をする。家族が泊まることもでき、他の利用者にも説明をしている。見送りの時、亡くなった方が好きだった歌を利用者が自然に歌い出し、皆で歌って見送った。今でも時々思い出してその歌を歌うことがある。初めての看取りであった為、職員にアンケートを実施。夜間時の不安や良かった等、様々な意見があったので、今後の参考にしてい。職員からは、看取った後に家族からお礼の言葉があり、やって良かったと思ったとの声が聞かれた。非常勤ではあるが、看護職員がいて、いつでも相談できることは職員の不安軽減に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時や、事故発生時のマニュアルを周知しており、発生時には、迅速に行動できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練を実施し、利用者・職員共に避難方法を確認している。反省点等話し合い、次回の訓練で実施している。	年2回消防署、報知器の設置業者の協力を受けて実施している。避難には歩ける方を優先するなど具体的に決めている。避難口は階段になっているが手すりについては、運営推進会議での訓練を計画していたが、コロナ禍で今後の課題とした。ハザードマップでの指定はないが、火災、地震等に加えて停電時の備えの必要性を実感している。1ユニットで夜間は1人となり不安はあるが、代表者宅が目の前にあることが不安軽減となっている。最近、夜間帯に利用者が間違っ て非常ベルを押してしまったときにも、代表に駆け付けてもらうことができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけないような声掛け・対応をしている。トイレ誘導・介助、入浴時には、特にプライバシーに配慮している。	トイレ誘導の声掛けは周りの人に聞こえないようにしたり、言葉かけを工夫している。面会簿は個表としているが、現在はコロナ対応型の様式を作り使用している。利用者同士のトラブルには、席を離したり、別の話題に切り替えるなど、利用者の心が傷つかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に合わせ、裁縫・編み物・塗り絵・屋外活動等やりたいことが出来るよう支援している。また、野菜の収穫や調理の準備・洗濯たたみ等、家事活動も一緒に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様各自のペースに合わせて活動して頂いている。起床時間や就寝時間も、個々のペースに合わせて、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら、季節に応じた洋服を選んで頂けるよう、声掛けしながら一緒に選んでいる。また、身だしなみも自分で出来るよう工夫し、声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度は感染症対策の為、月1回の外食は中止しているが、代わりに行事や誕生会でイベント食として、仕出し弁当を頼んだり、生もの等を買って食事を提供している。又、リクエストを聞いてメニューに取り入れている。	2日に1回買い物に行き、冷蔵庫の中を見ながら、利用者の意見を聞いて献立を考えている。刺身も近くのお店に切りたてを届けてもらったり、弁当でも刺身の下に保冷剤を置くお店を利用するなど、配慮しながら利用者の要望に応えるようにしている。誕生日に本人希望の『ぼたもちケーキ』を前に、にこやかに写る写真が飾られていた。ハンバーガーを買いに行くこともあるが、職員おすすめの美味しいパンで手作りすることもある。ホーム前の畑で栽培する新鮮野菜を使っている。利用者が好きな果物や乳製品、キノコ類などを多く使い、便秘予防にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量をその都度記録し、必要量が取れているか確認している。また、個々の食形態や量、嗜好を踏まえ食べられるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、口腔内の清潔保持し、誤嚥予防に努めている。就寝時には、義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のリズムに合わせて声かけをし、トイレ誘導を行っている。おむつを使用している方も、出来る限りトイレでの自立排泄ができるように支援している。	なるべくトイレで排泄できるよう、オムツを使用している方にも日中はトイレ誘導を支援している。トイレ誘導で、失禁回数が減った方がいる。夜間ポータブルを使用する方には、マットを敷き、スリッパ使用で安全と清潔に配慮した支援を行っている。トイレの設置数が多く、居室のすぐそばにあり、排泄が安心してできるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面に気をつけ、食物繊維の多い食事を献立に取り入れ、レクリエーションに体操をしたり、体を動かしたりして排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や状態により、入浴方法を変え、安全に入浴を楽しめる工夫をしている。入浴中歌を歌ったり、話を聞いたりして、個々に支援をしている。	1日おきの入浴を基本とし、必要な方には2人で介助している。個人のタオルを3枚使用し、椅子と足元に敷いて清潔や感染予防に配慮している。脱衣所にエアコンが設置され、快適な温度で着替えることができる。しょうぶ湯やゆず湯を楽しむ。着替えは利用者確認しながら選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明等も利用者様に合わせて変えている。また、夜間帯眠れなかったり、不安になってしまう方には、居室でゆっくり話を傾け、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に見れる状態にしており、内服の変更等は申し送り等で伝えている。本人の変化等は経過記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好きな事・楽しめる事を発見し、張り合いのある生活になるような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出が出来ない状況下にある。しかし、天気の良い日は外気浴したり、個別に散歩に行ったりして、リフレッシュを図っている。	コロナ禍で遠出はできないが、ホーム近くを散歩したり、代表宅でお茶を飲んだり、職員宅の桜を見に行ったりしている。畑の野菜を収穫したり、庭で日向ぼっこをするなど外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もいる。また、本人の希望で買い物に行くこともあるが、今年はコロナ対策外出が難しい為、ご本人の希望するものをスタッフが代わりに購入し、領収書と引き換えに代金を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書や手紙でのやり取りは継続されている。家族からの電話で話をされたり、必要に応じてこちらから電話をかける事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスには、季節の花を置き、景色を楽しめる工夫をしている。天窓もあり、自然の明るさも感じられる。隣接の畑で季節の野菜を収穫し、食事にも季節を楽しめる工夫をしている。	ホールは天井が高く、明るく清潔感がある。最近では天窓を開けて換気をすることが多くなり、半纏など暖かい物を着ている。陽射しが当たりすぎるときには席を移動したりして、快適に過ごせるように気をつけている。廊下には、イベントや日常の写真が掲示され、利用者の笑顔から楽しく生活できている様子が窺われた。玄関やホールのクリスマス飾りが季節感を一層際立たせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で活動して頂けるような支援をしている。個々の希望に沿って快適に過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを家族に持参して頂き、安心して居心地よく過ごして頂く工夫をしている。また、居室ドアの名札に好きな物を貼り、わかるように工夫している。	洗面台とクローゼットが備え付けられた居室は、タンスやテレビ、いすなどを置き、家族の写真や自分の作品などを飾って、思い思いの部屋作りがされている。居室ドアの名札は、好きな物が貼られており、その方の生活を想像できるような気がする。掃除は職員がするが、一緒に掃除する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は、自分でして頂けるよう声掛けしている。洗濯物たたむ時は、利用者毎に分けてくださる。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームこもれ陽の家

目標達成計画

作成日 : 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1					ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。